

氏名	南 堂 良 平
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1400 号
学位授与の日付	昭和58年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	ウサギ胃・小腸運動に対する歯髄刺激の効果
論文審査委員	教授 堀 泰雄 教授 新見嘉兵衛 教授 村上宅郎

学位論文内容の要旨

ウサギを用い、歯髄の電気刺激の消化管運動に対する反射効果とその反射経路および薬物の効果を検討し、次のような結果を得た。

- (1) 胃体部、幽門洞と十二指腸運動の亢進あるいは抑制が観察された。両側大内臓神経切断は抑制効果を亢進効果に転じ、続いての両側迷走神経切断は亢進効果を消失させた。
- (2) C_6 と guanethidine は、胃・小腸運動への反射効果を消失させたが、胃枝の反射性放電の増加には影響を与えなかった。atropine は、胃・小腸運動への反射効果を遮断し、また下歯槽神経刺激による胃枝の誘発電位を消失させた。morphine は、胃枝の反射性放電を遮断した。このことは、atropine, morphine の遮断効果は末梢性ではなく、中枢性に作用していることを示唆している。
- (3) 中脳の中央部以上の除脳は、この反射効果にほとんど影響がなかった。
- (4) 以上の結果から、歯髄刺激による胃・小腸運動への反射経路は、次の2つが推定された。(1)三叉神経を求心路として、三叉神経主知覚核に入り、介在ニューロンを経て、迷走神経背側核に達し、迷走神経を通じて胃腸運動に亢進効果を現わす。(2)三叉神経主知覚核を経て、胸髄側柱の交感神経核に達し、内臓神経を経て、胃腸運動に抑制効果を現わす。

論文審査の結果の要旨

本研究はウサギ歯髄刺激が消化管運動に亢進あるいは抑制効果を有することを明らかにし、そのような反射性亢進あるいは抑制効果に関する反射求心路は三叉神経より三叉

神経脊髄路核にいたること，遠心路はそれより介在ニューロン，迷走神経背側核，迷走神経を經由するもの（抑制効果）および胸髄側柱の交感神経核，内臓神経を經由するもの（抑制効果）であることを推定した。またアトロピンの作用点が中枢内に存在すると予測される成績を得るなど興味ある諸結果を得たのは学位論文にふさわしいものであると認める。